

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成26年4月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成26年3月分(平成26年3月3日～平成26年4月6日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	6,263	10.89	9.05	↘	11	ヘルパンギーナ	11	0.03	0.02	↑
2	RSウイルス感染症	83	0.23	0.39	↓	12	流行性耳下腺炎	130	0.36	0.68	↘
3	咽頭結膜熱	286	0.79	0.39	↘	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	562	1.56	2.12	→	14	流行性角結膜炎	61	0.64	0.81	→
5	感染性胃腸炎	2,639	7.33	9.27	↘	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.02	
6	水痘	299	0.83	1.26	→	16	無菌性髄膜炎	3	0.03	0.01	
7	手足口病	7	0.02	0.56		17	マイコプラズマ肺炎	3	0.03	0.21	
8	伝染性紅斑	6	0.02	0.20		18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	148	0.41	0.47	→	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	29	0.28	—	↗
10	百日咳	6	0.02	0.06							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成26年3月分(3月1日～3月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	52	2.26	2.01	→	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	86	4.10	5.52	→
21	性器ヘルペスウイルス感染症	11	0.48	0.65	↘	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	12	0.57	1.42	↘
22	尖圭コンジローマ	17	0.74	0.58	↘	26	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
23	淋菌感染症	36	1.57	0.70	→	27	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.20	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

発生記号(前月と比較)

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

●急増疾患 ヘルパンギーナ(2件→11件)

●急減疾患 RSウイルス感染症(163件→83件)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～27	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	34	結核(34)〔西部保健所(3), 東部保健所(6), 北部保健所(2), 広島市保健所(10), 呉市保健所(8), 福山市保健所(5)〕
三類	0	発生なし
四類	18	A型肝炎(16)〔西部保健所(1), 広島市保健所(13), 呉市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, レジオネラ症(2)〔広島市保健所(1), 呉市保健所(1)〕
五類全数	11	アメーバ赤痢(2)〔東部保健所(1), 広島市保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(B型)(1)〔西部東保健所〕, 後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, ジアルジア症(1)〔福山市保健所〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(2)〔東部保健所(1), 広島市保健所(1)〕, 麻しん(1)〔福山市保健所〕, 風しん(2)〔広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕

3 一般情報

(1) 海外で注意すべき感染症について

ゴールデンウィークに海外に渡航される方は、健康で快適な旅行にして帰国するためには、次表にあるような感染症に対する注意が必要です。

主な感染源	主な感染症	主な発生地域	主な症状	予防接種	予防策
食べ物 水	B型肝炎	世界各地	発熱, 倦怠感, 黄疸		十分火の通った食べ物を食べる 生水は飲まないようにする
	A型肝炎	発展途上国地域	発熱, 倦怠感, 黄疸	○	
	赤痢		発熱, 下痢, 腹痛		
	腸チフス		持続する高熱, 下痢, 倦怠感		
	コレラ		大量の水様便, 嘔吐, 脱水症状		
蚊	マラリア	熱帯	周期的高熱, 悪寒, 冷汗	予防策	虫除けローションの使用 長袖・長ズボンの着用
	デング熱	亜熱帯地域	高熱, 筋肉・関節痛, 発疹, 目の痛み		
	日本脳炎	アジア	高熱, 昏睡, 意識障害, 頭痛	○	
	黄熱	アフリカ 南アメリカ	高熱, 頭痛, 筋肉痛, 悪寒, 嘔吐	○	
	ウエストナイル熱	北アメリカ アフリカ 中東アジア	発熱, 頭痛, 筋肉痛, 倦怠感		
	チカング熱	東南アジア 南アジア アフリカ	高熱, 頭痛, 筋肉・関節痛, 倦怠感, 発疹, 関節腫脹		
動物	狂犬病	世界各地	発熱, 治癒した受傷部の痛み, 知覚過敏, 怖水・怖風症状	○	みやみに動物に触らない 犬等の咬傷を受傷後の予防注射
	鳥インフルエンザ	東南アジア	発熱, 呼吸器症状		鳥類との接触を避ける 手洗い, かいの励行

出発前に渡航先の流行状況等に関する情報を入手しておくことは非常に大切です。詳しい情報は、厚生労働省検疫所ホームページや外務省海外安全ホームページなどを御覧ください。

(2) A型肝炎について

今年に入って22件(平成23年は1年で11件)発生しており、例年よりも多い状況です。

【A型肝炎とは】	<ul style="list-style-type: none"> A型肝炎とは、発熱、倦怠感、黄疸などを主症状とするウイルス性の疾患です。 典型的には、15～45日(平均30日)の潜伏期間の後、発熱、倦怠感などに続いて、食欲不振、嘔吐などの消化器症状、肝機能低下による黄疸などを呈します。 1～2か月の経過の後に回復し、予後は良好で慢性肝炎への移行はありませんが、まれに劇症化することもあります。
【感染原因・感染経路】	<ul style="list-style-type: none"> A型肝炎ウイルスを原因とします。A型肝炎ウイルスは患者の便に排出され、この便に汚染された水や氷、野菜・果物・魚介類などを介して感染します(糞口感染)。 また、人から人への二次感染も起こりやすく、性的接触により感染することもあります。
【予防方法】	<ul style="list-style-type: none"> 便を介して感染する可能性があるため、生水、加熱処理していない食物の摂取を避け、手洗いを励行しましょう(特に、食前、オムツ交換後)! 生ものを調理した際は塩素系洗剤などで調理器具を消毒しましょう! アフリカ、アジア、中南米など流行地域に渡航する際には、予防接種を受けることをお勧めします! 渡航先では生水、氷入りの飲み物、加熱していない食物に注意が必要です!
【治療】	<ul style="list-style-type: none"> 安静及び食事療法(高蛋白)が基本となります(原則として急性期には入院) 重症化や劇症化を示す症状の有無、検査結果を踏まえて治療が行われます。